

第5回 向日町競輪事業外部有識者会議 次第

日 時：令和5年5月22日（月）

午後3時30分～

場 所：向日町競輪場 選手管理センター
3階305会議室

1 開 会

2 議 事

（1）持続可能な競輪事業に向けての取組について

（2）意見交換

3 その他

4 閉 会

<配付資料>

出席者名簿、配席図

資料1 持続可能な競輪事業に向けての取組

資料2 京都府立京都スタジアム（サンガスタジアム byKYOCERA）の取組

資料3 他の競輪場の取組

<参考資料>

第4回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

第5回 向日町競輪事業外部有識者会議 出席者名簿

【委員】

(五十音順・敬称略)

氏名	役職等
岡崎雄至	寺戸町連合自治会長
奥野美奈子	京都銀行取締役
川勝健志	京都府立大学公共政策学部教授
小長谷敦子	公認会計士・税理士
徳廣剛	京都府立北桑田高等学校長 (公財)京都府スポーツ協会参与
山本将利	三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)主任研究員 横浜商科大学特任教授

【京都府】

氏名	役職等
山田智樹	京都府総務部副部長
福井景一	京都府自転車競技事務所長
川崎浩孝	京都府文化生活部副部長

持続可能な競輪事業に向けての取組（論点）

1 前回（3月15日）の外部有識者会議のまとめ

- (1) 関係者が多様化する中での大きなコンセプトの設定・共有
誰にとっても魅力的な憧れの場、聖地を作るなどのコンセプトの共有
- (2) 競輪場自体及びエリア全体の魅力向上
立地、アクセス、一定面積、周辺環境等の好条件を活かした様々な選択肢の提示（日常的利用、イベント常設、オープンスペース整備など）
- (3) 公益性の担保の下での民間事業者の巻き込み
バッファゾーンの設定、ビジネス面でのメリット（収益性の確保）

2 今回の意見交換の論点

上記を踏まえ、参考となる取組を説明し、意見交換をいただく
（参考となる取組）**資料2**サンガスタジアム、**資料3**他の競輪場

3 参考（京都府議会及び外部有識者会議からの主な意見）

府議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギャンブル依存症対策 ・ 老朽施設への対応 ・ 収入の確保 ・ まとまった余剰スペースの確保 ・ 地域住民の意見反映 ・ 飲食サービスの充実 ・ 選手宿舎の活用（災害時等）
外部有識者会議	<p><ソフト面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な収支分析 ・ 関係者の意見聴取（検討プロセスへの参画） ・ 大きなコンセプトの設定・共有 ・ 多様化する関係者への対応 （競輪・自転車競技関係者、観戦者、地域住民、民間事業者など） ・ 民間ノウハウの活用（民間事業者のビジネス面のメリットなど） ・ 非開催時の地元利用（日常的利用、イベントなど） ・ キャッシュレス化（運営の効率化、イメージアップなど） ・ 開催時間帯の見直し（モーニング競輪など） ・ 競輪の魅力発信（アニメの発信力の活用など） ・ 入場料の見直し ・ 自転車関連業者の出店など収入の確保
	<p><ハード面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見る方にもする方にも快適な施設 ・ 競輪場自体の魅力向上（様々なスポーツが楽しめる施設、遊具・芝生広場等オープンスペースの整備など） ・ エリア全体の魅力向上（立地、アクセス、一定面積、周辺環境を踏まえた施設整備・活用（日常的利用、イベント常設化など）） ・ 緑地の確保、住宅地との緩衝帯（バッファゾーン）の確保 ・ バンクへの屋根の設置、大型モニターの設置 ・ 災害時の対応

■参考①：埼玉県競輪事業検討委員会報告書（令和4年3月）（抜粋）

- ・ 入場者数の減少傾向や高齢化を考えると、競輪事業の継続的な発展のためには新たなファン層の開拓を行う必要がある。
- ・ 競輪場のイメージについて調査したところ、多くの人が競輪場に良い印象を持っていないという結果が出た。競輪事業の目的周知やイメージアップを図る必要がある。

課 題	対 応 策
競輪事業 の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ① 一般入場料の無料化 ② 競輪初心者向けのイベント、演出の実施 ③ 競輪場内でアートなどをテーマにしたイベントの開催 ④ 競輪場内への人気飲食店やカフェの誘致 ⑤ 競輪を楽しめる演出の実施 ⑥ 団体客誘致のためのBOX席設置の検討 ⑦ 地元を拠点としたエンターテイメント企業との連携 ⑧ スポーツ・バーと連携したネット車券販売の展開 ⑨ 学校との連携 ⑩ 競輪選手の意見を反映した取組の実施 ⑪ 大宮双輪場の大宮公園との一体化
イメージ アップ	<ul style="list-style-type: none"> ① スポーツとしての競輪の魅力発信 ② 自転車競技の普及に向けた取組の充実 ③ 社会貢献のアピールの継続的な実施 ④ 目的、方向性を掲げた事業の実施 ⑤ Jリーグのブランディングの研究

■参考②：防府競輪活性化計画（令和3年3月）（抜粋）

IV 活性化に向けた方向性と取組

1 交流の輪が広がる競輪場

(1) 明るいイメージの創出

本競輪場の特徴である「幸せます」のピンク色を用いた場内整備や愛称の命名を行うなど、明るいイメージの創出に努める。

《主な取組》

- ・ 防府競輪場のイメージカラーである「幸せます」のピンク色をあしらった施設整備による明るいイメージの創出
- ・ 防府競輪場をより親しんでもらうための愛称の命名
- ・ 「おもてなし」の雰囲気づくりのための競輪場関係者への接遇教育の実施
- ・ 競輪初心者へのレクチャーを始めとした様々な来場者のニーズに応える体制整備
- ・ 競輪場利用でない方も利用できる飲食スペースの整備

(2) 新たな交流の創出

子どもから高齢者までの幅広い世代の方々や女性が、気軽に立ち寄り、楽しめるような場を提供することで、新たな交流が生まれるきっかけを作る。

《主な取組》

- ・ 「おもしろ自転車」や子ども向けの「キックバイク（ペダルなし二輪玩具）」等の貸出し
- ・ 子ども向けの自転車教室やキックバイク競技会等の開催
- ・ 各種イベントの開催

(3) サイクルスポーツの振興

交流推進や技能向上のため、アマチュアのサイクリストや自転車競技のジュニア選手などに対して支援するとともに、人と人とを繋ぐ人材の育成に努める。

《主な取組》

- ・ 市民がバンクを自転車で走る体験イベントの開催
- ・ サイクルスポーツの裾野を広げるため、ジュニア選手等の育成を行う自転車競技団体等への支援
- ・ サイクリングターミナルと連携したサイクルイベントの企画・開催
- ・ 競輪場施設内に自転車関連アニメ等のサイクルスポーツコンテンツの展示やサイクル関連イベント情報の紹介を行うサイクルスポーツブースの設置

(4) 観光資源としての活用

防府競輪場の情報発信や関係団体との連携による観光客の誘客を推進する。

《主な取組》

- ・ 防府競輪場の魅力を再発見するための写真撮影会などの開催
- ・ 防府観光コンベンション協会等と連携した競輪体験ツアーなどの企画についての検討
- ・ 地元選手及び防府競輪関連グッズの開発・活用

2 快適で利用しやすい競輪場

コンセプトに沿った3つの方向性に従った取組を推進する。

(1) 老朽化施設の整備

老朽化した施設の改修等を実施し、来場者に快適な空間を提供する。

(2) 来場者に分かりやすい施設

来場者の動線の最適化を図るとともに、サイン等により分かりやすい競輪場の整備を行う。

(3) 安全・安心な施設

来場される方の利便性に配慮したバリアフリー、ユニバーサルデザインによる施設整備を行う。

また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行う。

《主な取組》

- ・ 段差がある箇所へのスロープ等の設置や複数階の施設へのエレベーターの設置、多目的トイレの設置
- ・ 新型コロナウイルス感染症を想定した「新しい生活様式」の実践例や、競輪業界が策定した「感染拡大予防ガイドライン」に沿った感染防止対策の実施

3 安定した経営を目指す競輪場

取組の実施により、結果として市への財政貢献を果たすことで、市民の防府競輪に対する理解に繋げていく。

(1) ファン獲得の戦略

場内外において、競輪の魅力を分かりやすく伝えるための様々な施策を実施するとともに、地元のスター選手のPRや魅力ある競輪情報を発信することにより、新たなファン獲得に努める。

《主な取組》

- ・ 生の競輪を観ることが出来る本場開催日数の引上げ
- ・ 迫力ある競輪を間近で体感できる空間の確保
- ・ SNS等による競輪の魅力発信
- ・ 地元スター選手のテレビ番組等への出演

(2) 売上増大のための方策

本場開催の形態や投票方法などの見直し、来場者へのサービス充実などによる車券の売上増大を図る。

《主な取組》

- ・ インターネット投票の売上げを伸ばすための防府競輪独自の映像・番組制作、キャンペーン等の企画
- ・ キャッシュレス投票システムの導入等による車券購入者へのサービス提供

(3) 効率的で計画的な事業運営

運営コストの見直しのため、新たな業務委託の検討などに取組むとともに、使用頻度の低い施設の有効利用を図る。

また、施設の計画的な改修・整備を行うための財源を確保するため、施設整備基金への積立てを行う。

《主な取組》

- ・ 業務を外部委託した場合の経費削減効果の検証
- ・ 施設整備による集客施設の集約による運営経費の削減
- ・ 本場開催のみで使用する施設等、使用頻度が低い施設の有効利用
- ・ 施設整備計画等に基づいた施設整備基金の積立て

(4) 市財政への貢献

安定した収益を確保した上で、市財政への貢献を行っていく。

防府競輪の貢献について市民の認知度を高めるためのPRを行う。

《主な施策》

- ・ 一般会計への繰出しを行う。
- ・ 防府競輪の貢献についてホームページ等で紹介する。

京都府立京都スタジアム (サンガスタジアム by KYOCERA) の取組

第 5 回 向日町競輪事業外部有識者会議

プロジェクトのポイント

- 「観るスポーツ」と「するスポーツ」の**あらゆるニーズを網羅するスポーツ拠点**として整備され、にぎわい創出エリア等において、試合やイベント開催日以外でも**多様な世代が楽しめる日常的な賑わい**を創出。
- サンガスタジアム by KYOCERAを核としたまちづくりに取り組み、**府中北部地域へのゲートウェイ**として、地域の魅力を発信。

施設概要

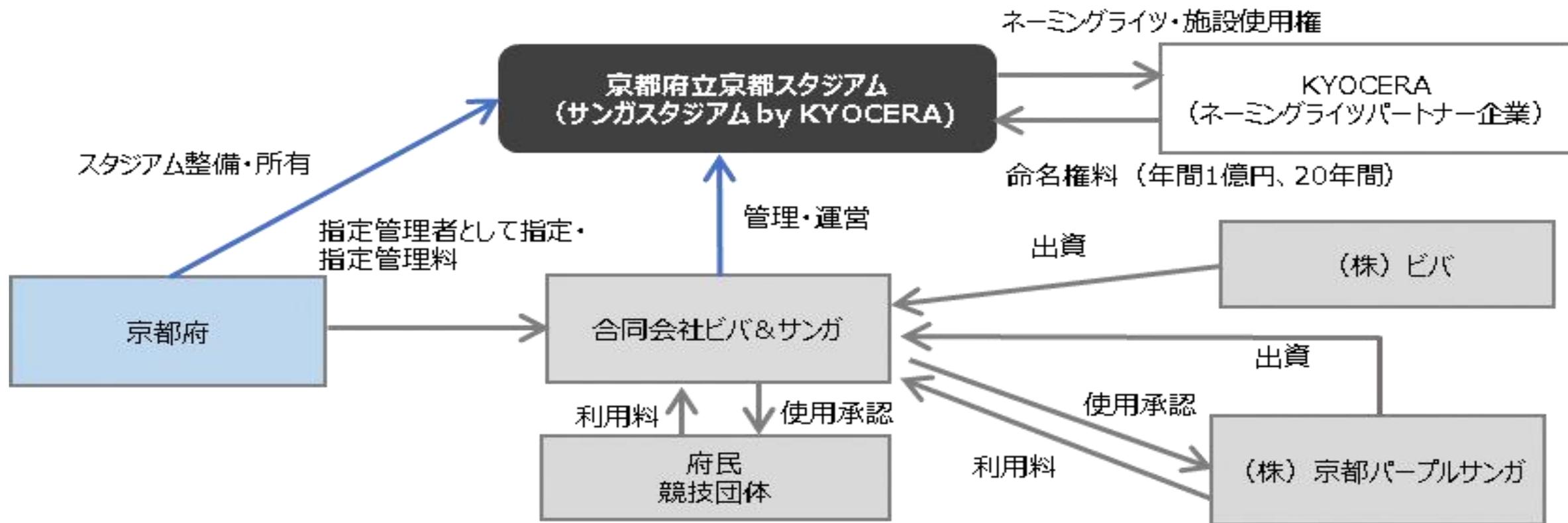
所在地 ／ アクセス	京都府亀岡市亀岡駅北1丁目8番地2 (JR 亀岡駅から徒歩すぐ)		
面積	敷地	約33,140㎡	延床 約35,600㎡
構造	鉄筋コンクリート造/ 鉄骨造 地上4階建		
観客席	約21,600人		
付帯施設	VIPルーム	有り (VIPラウンジ、VIPルーム、スカイボックス)	
	飲食・物販	フードコート、イベント時にはコンコースにも出店	
	その他	会議室、防災備蓄倉庫、にぎわい創出エリア (VR・eスポーツゾーン、コワーキングゾーン、クライミング施設、足湯施設、保育園等) 等	
ホームチーム	京都サンガF.C. (Jリーグ)		
スポーツ興行	サッカー (国際大会、Jリーグ等)、ラグビー、アメフト、 スポーツクライミング (全国大会)、ニュースポーツ、eスポーツ等		
防災機能	避難所としても機能。防災備蓄倉庫や非常用発電機を設置。		

事業概要

	京都府と亀岡市が所有する土地に、京都府がスタジアムを整備したうえで、指定管理者制度を活用して(合)ビバ&サンガが管理運営。
事業主体	京都府
所有者	土地：京都府、亀岡市 建物：京都府
整備事業費	約154.5億円
資金調達	京都府一般財源、企業寄附、ふるさと納税制度、スポーツじ助成金、命名権等の活用
管理・運営方法	指定管理者制度を活用して、指定管理者 (合同会社ビバ&サンガ) が維持管理運営。
事業期間	整備：平成29年12月～令和元年12月 (工期) 約2年1ヶ月 運営：令和2年1月～

京都府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）

<運営スキーム図>



施設の概要 (初期設置施設)



フィールド/スタンド



VIPラウンジ



スカイボックス



会議室



北広場/外部デッキ



足湯



スポーツクライミング
(グラビティリサーチ)



3x3バスケットボールコート

施設の概要 (賑わい創出エリア)



eスポーツゾーン



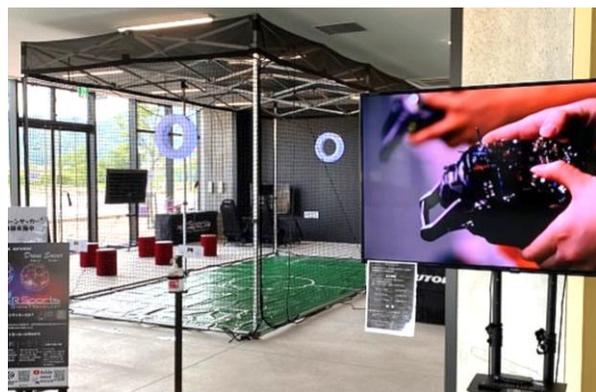
コワーキングゾーン



VR/フィットネスゾーン



Football Diner



オートボックスセブン
ドローンサッカーアリーナ京都



びばっこ保育園



木育ひろば「KIRInoKO」

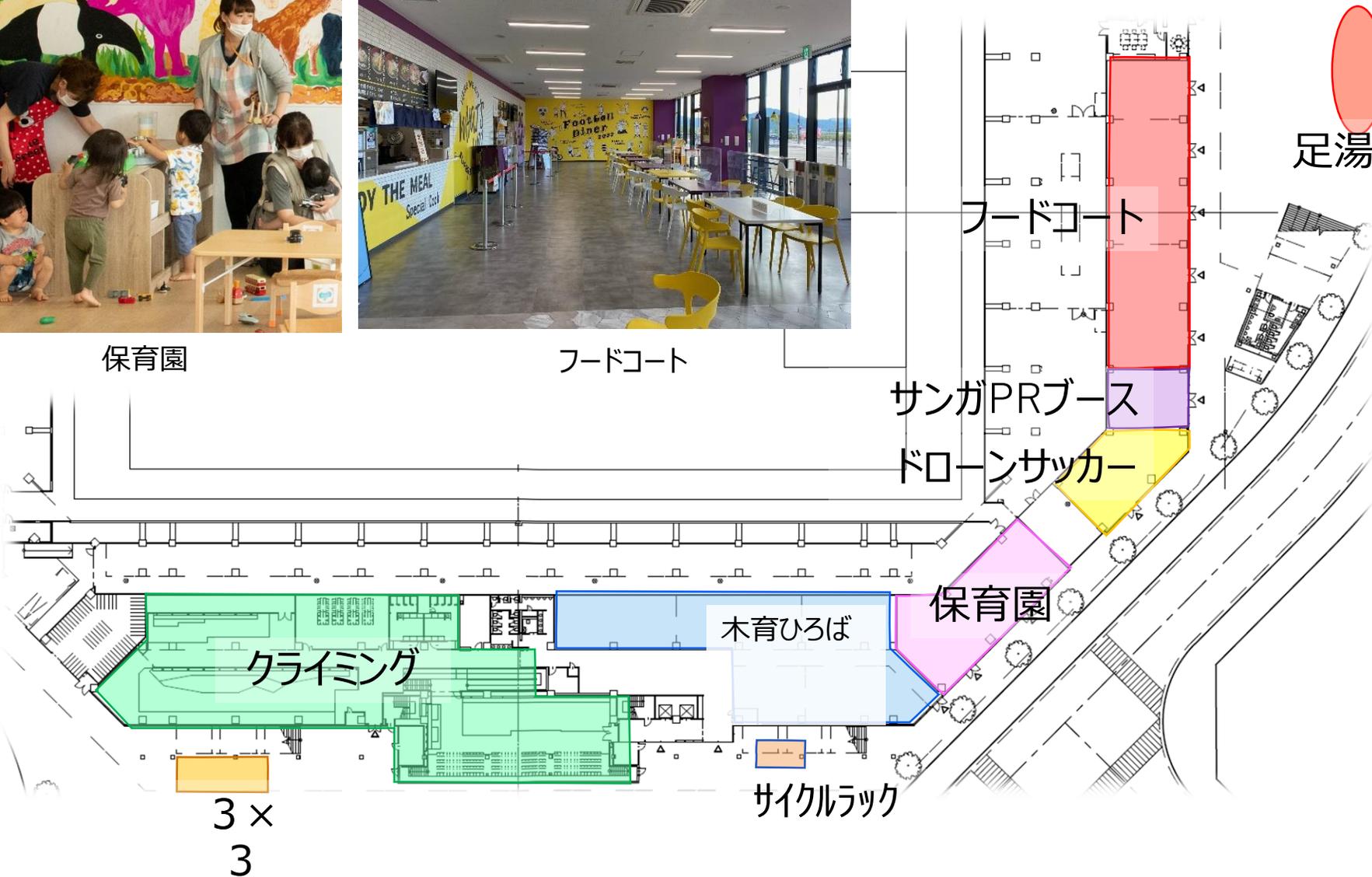
にぎわい創出エリアの主な施設の配置



保育園



フードコート



↑ 至亀岡駅

足湯

フードコート

サンガPRブース

ドローンサッカー

保育園

木育ひろば

クライミング

サイクルラック

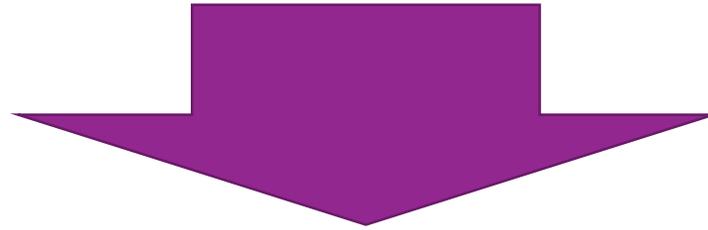
3x3

スタジアムを核とした地域創生へ

いかにして365日
賑わうスタジアム
にするか？

サンガスタジアムにしか
できないことは何か？

いかにして
京都や日本の未来に貢献する
スタジアムにするか？



スポーツを通じた「人材育成」と
「イノベーション創出」を目指す「交流・賑わい拠点」

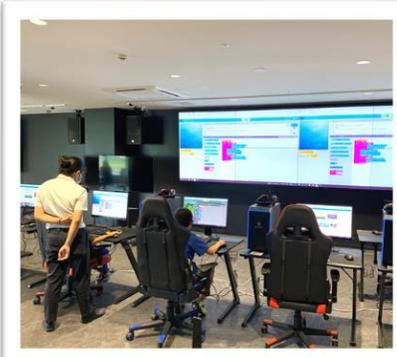
- 子育て支援・人材育成（スタジアムを子育て支援や人材育成）
- イノベーションの創出（先端技術の積極的な導入と実証）
- 交流・賑わいの創造（365日賑わうスタジアムへ）

子育て支援・人材育成

スタジアムを活用した
子育て支援や人材育成



保育園
園庭散歩



ロボマスター
プログラミング教室



起業家支援



ボルダリング教室



パスワードハッカー
選手権



木育ひろば
「KIRInoKO」

内閣府所管 企業主導型保育事業
びばっこ保育園
vivakko hoikuen
(日本初のスタジアム内保育園)

イノベーションの創出

先端技術の積極的な導入と実証



撮影

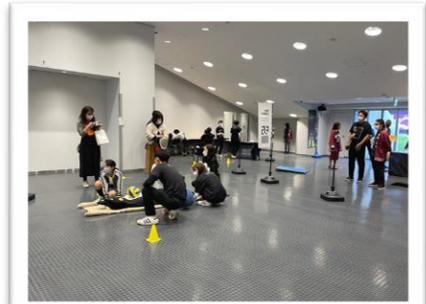
自由視点映像生成



ロケットリーグ全国大会
(日本初のWiFi6による開催)



亀岡市 × サンガスタジアム by KYOCERA



防災スポーツ



自由視点映像生成システムのイメージ



eスポーツツーリズム



ドローン遠隔操縦



ワーケーション

自由視点分析サービス <Vantage>
(国内スタジアム初の自由視点カメラ常設)

eスポーツ
(国内スタジアム初の常設施設)

サンガスタジアム by KYOCERA
イノベーションフィールド実証事業

交流・賑わいの創造

多彩な切り口でスタジアムファンを醸成し、
365日賑わうスタジアムへ



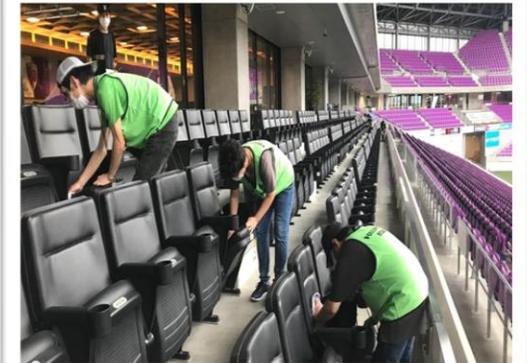
3×3大会



キッズ
スポーツフェスタ



ピッチ de テント泊



はあとフルサंगा!!
障がいのある方との協働



ロードバイク



スタジアムツアー
(ファンや学校の課外授業など
累計約4000名の参加)



かめきたひろばでの
ecoマルシェ



スタジアム
ウェディング

サンガスタジアム by KYOCERA

を核とした地域創生へ
～「京都モデル」の創出～

365日賑わうスタジアムへ



令和4年度京都スタジアム 利用状況

●利用件数		1,846件
・ フィールド・スタンド	123件	
・ 会議室	1,723件	
●利用者数		363,684人
・ フィールド・スタンド・コンコース	287,253人	
・ 会議室	15,836人	
・ 広場・付帯施設等	51,518人	
・ スポーツライミング	8,740人	
・ 保育園	337人	

京都府のスポーツ施設の状況

全国からみた 京都府の施設数の状況

スポーツ庁「体育・スポーツ施設現況調査」（令和3年度調査より）

府内全施設 [3, 752]	施設数	21位
	人口当たり	40位
主要8施設 (野球・ソフトボール、球技場、 多目的運動場、 屋外プール、屋内プール、 体育館、屋外テニスコート、屋 内テニスコート) [2, 769]	施設数	22位
	人口当たり	40位
公共スポーツ施設数 [673]	施設数	35位
	人口当たり	40位

京都府 各スポーツ種目施設 状況

野球・ソフトボール [115]	41位
球技場 [48]	38位
多目的運動場 [38]	38位
体育館 [873]	41位

※すべて人口当たりの順位

※ [] は施設数を指す。

※ 多目的運動場

野球場2面、サッカー場1面、300mトラック併用施設で照明設備を備える運動場を指す。

※ 公共スポーツ施設

公立社会教育施設（社会教育活動において利用される施設、あるいは社会教育行政が所管する施設）に付帯するスポーツ施設及び社会体育施設（一般の利用に供する目的で地方公共団体が設置した体育館、水泳プール、運動場等のスポーツ施設）を指す。

他の競輪場の取組 (再整備)

① 広島競輪場 再整備・運営事業の取組状況（広島市HPより）

■事業の趣旨

老朽化した広島競輪場を自転車によるスポーツやレジャー等のニーズに対応する複合的な施設に再整備し、競輪事業及び自転車を活用したスポーツ振興等に係る事業の運営等を一体的に行うもの

■事業の概要

○事業者名 株式会社チャリ・ロト ○事業用地 約6万9千㎡

○事業期間 令和4年度～37年度

○費用負担

ア 解体費：広島市負担(上限額：11億9,962万7千円)

イ 再整備費：事業者負担
(新施設の所有権は事業者に帰属)。

ただし、広島市は施設使用料
(2億7,000万円/年)を負担

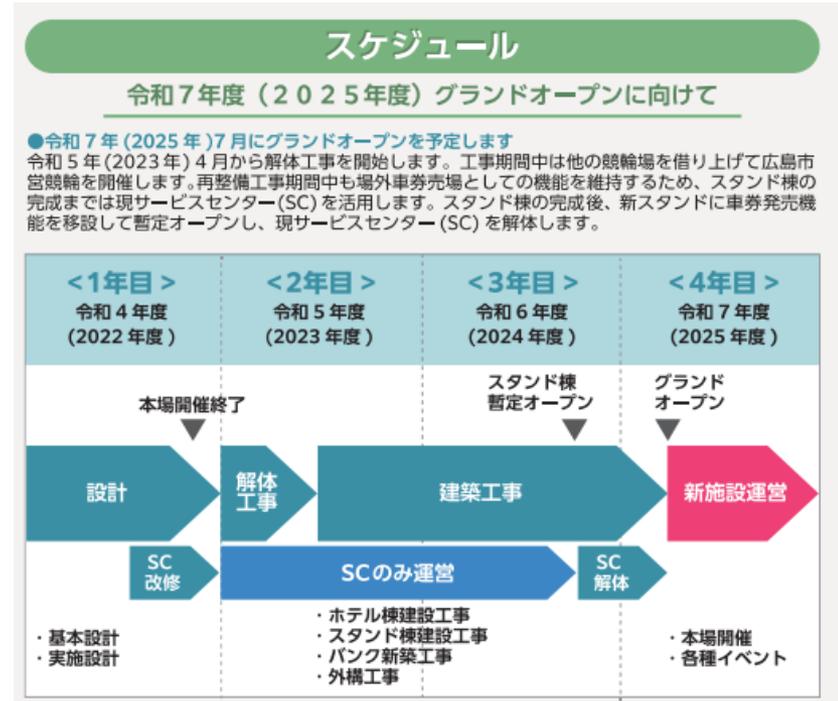
ウ 競輪事業包括委託費：

広島市負担(ただし、事業者は、広島市に対し3億円/年の収益を保証)

■取組状況

事業者による新施設の設計は概ね完了。

また、現行施設では、令和4年度の全ての広島市営競輪の開催が終了し、現在、場外車券発売等のみを実施。



再整備の概要① (コンセプト)

広島競輪場再整備事業概要説明資料【本資料のイメージ図や写真については、実際と異なる場合があります】

別添資料

アーバンサイクルパークス広島

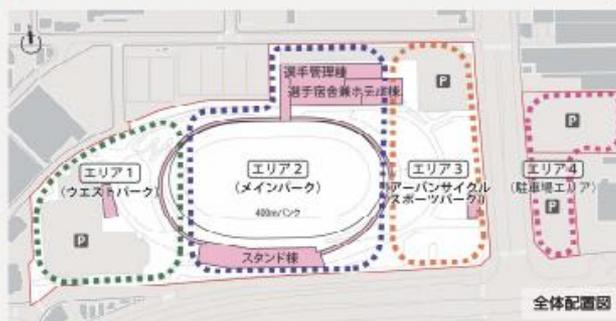
コンセプト

広島競輪場は、日本最大級のアーバンサイクルスポーツ(*)施設を有する、
競輪とアーバンサイクルスポーツが融合する市民公園「アーバンサイクルパークス広島」として生まれ変わります

(*) アーバンサイクルスポーツとは：アーバンスポーツとサイクルを組み合わせ、BMX やスケートボード、キックバイク等、車輪がある乗り物全般を使った競技を示すものとして独自に定義

アーバンサイクルパークス広島 7つの特徴

- 1 誰もが安心して競輪を楽しめます
- 2 自転車等を通して様々なスポーツやレジャーを楽しめます
- 3 競輪場をオープンな施設にします
- 4 緑あふれる施設とします
- 5 地域の安全・安心なまちづくりに貢献します
- 6 サイクリストを中心にスポーツ愛好者の交流の場にします
- 7 宇品地域のランドマークとなります



再整備の概要②（エリア設定）

（広島市HPより）

・ ウエストパーク（エリア1）

芝生広場、屋内休憩所、子供用遊具、菜園等、地域に開かれた緑あふれる公園エリア

・ メインパーク（エリア2）

安心して競輪を楽しめ災害にも対応するスタンド棟、サイクリスト等が交流できる選手宿舎兼ホテル棟を整備

（その他、バンク、空中歩廊、屋外大型ビジョンを整備）

・ アーバンサイクルスポーツパーク（エリア3）

様々なスポーツやレジャーを誰でも楽しめることで、賑わいと新しいスポーツ文化を生み出すエリア

（BMX、スケートボード、キックバイク、おもしろ自転車、3×3の各ゾーン）

・ 駐車場エリア（エリア4）



緑あふれるオープンな施設（広島市HPより）

誰でも気軽に立ち寄れるオープンな競輪場に

- 現競輪場のイメージを脱却してオープンな競輪場にするために、周囲の壁は設けず、最小限のフェンスのみを設置することで、オープンなイメージとセキュリティを両立
- ゲートを増やし、多方面からの入場が可能
- 周囲を植栽等にするすることで、緑あふれる環境を実現



ギャンブル依存症の対策

- ・お客様相談室として、プライバシーに配慮した相談窓口の設置や啓発活動（ポスター・チラシの掲示、場内放送）などの基本的な対策を実施します。
- ・車券発売機能の一部をキャッシュレスシステム化することで、会員管理を行い、本人・家族からの申請による購入金額の上限設定を可能とするとともに、会員登録の際の年齢確認により20歳未満の方の車券購入を防ぎます。

②高松競輪場 (高松競輪場再整備方針より)

■コンセプト

誰でも気軽に訪れることのできる魅力ある施設整備

- ・ 老朽化した施設の撤去や耐震改修等の安全対策
- ・ 競輪施設のコンパクト化
- ・ 各種イベントが開催できる環境整備
- ・ サイクルスポーツ・ツーリズムの拠点となる環境整備

■収容規模(想定案)

一日の平均入場者数や最大入場者数等の調査・検討により、過大となっている施設のコンパクト化を図るため、観覧席の収容人員を下表のとおり計画する。

中央スタンド 一般席	3,003人
特別観覧席	814人
西スタンド(観覧席閉鎖中)	8,175人
北スタンド(観覧席閉鎖中)	2,130人

既存施設 合計 14,122人



中央スタンド 一般席	1,000人
特別観覧席	100人

計画施設 合計 1,100人
立見スペース 700人程度

ゾーニング (案)

① (高松競輪場再整備方針より)



● 中央エリア (観覧・競輪運営ゾーン)

安全・快適な観戦環境を確保するため、耐震補強及び改修等の検討を行う。

- ・ 開催本部や審判室などの競輪開催に必要な機能を維持する。
- ・ 安全・快適な観戦環境を確保できる必要最小限の機能を計画する。
- ・ 敷地内の競輪関係施設を集約し、コンパクト化を図る。

● 余剰地エリア (利活用ゾーン)

老朽化した施設等を撤去し、サイクルオアシスの整備、場内イベントの開催ができる環境等を整備し、サイクリスト、女性や子ども家族連れが気軽に訪れるエリアとする。

また、民間活力導入を検討していく上で、柔軟なアイデアを活かせるエリアとする。

(主要な必要機能)

サイクルオアシス、遊具、イベントが開催できる環境、屋外便所など

③久留米競輪場 (久留米競輪場再整備基本計画より)

6. 再整備の基本方針及び施設の整備方針

(1) 再整備の基本方針 「PARK in KEIRIN -競輪場に公園の価値を創る-」

久留米競輪場の再整備を検討するにあたっては、正源氏公園の計画区域にある資産（豊かな自然環境、歴史遺構、サイクルファミリーパーク等）と連携し、公園、交通、防災といったまちづくりの視点も考慮します。また、競輪場が中心になって、「ひと」「まち」「自然」「文化」を繋ぎます。

競輪のみに限らず、スポーツ、自然、歴史、教育など多様なニーズを持った人々が集い、繋がりを、公園としての機能を持ち合わせた未来へと歩む競輪場を目指し、再整備の基本方針を「PARK in KEIRIN -競輪場に公園の価値を創る-」とします。

多様なニーズを持った人々が集います

- ・ふれあいの生まれる空間
- ・日常生活での利用
- ・ピクニックやデートに
- ・自転車競技者の育成



豊かな自然と触れ合います

- ・人といきものとの共存
- ・余剰地から生まれる新しい緑
- ・開放的で美しい自然景観

ひと

- ・競輪選手
- ・競輪ファン
- ・スポーツ観戦
- ・自転車愛好家
- ・公園利用者
- など

自然

- ・豊かな緑と水の自然環境
- ・貴重な生態系
- ・丘陵地の美しい自然
- など

まち

- ・閑静な住宅地
- ・都市公園
- ・都市計画道路
- ・サイクルファミリーパーク
- など

文化

- ・歴史遺構
- ・自転車
- ・スポーツ
- ・レクリエーション
- など

まちと連携します

- ・地域の価値向上
- ・健康維持・増進に寄与



多様な活動を生み出します

- ・地域の文化活動での利用
- ・歴史や自然の体験学習
- ・自転車レッスン
- ・スポーツ教室

(2) 施設の整備方針

再整備の基本方針 「PARK in KEIRIN -競輪場に公園の価値を創る-」 をもとに、施設の整備方針を3つ掲げます。

整備方針①

コンパクト化された施設

施設規模の最適化によって効率的な運営を実現

整備方針②

レース観戦を楽しめる施設

メインストリート沿いに観覧機能を集約し迫力あるレースを堪能

整備方針③

多様な来場者も楽しめる施設

コンパクト化によって生じるスペースを多目的に活用

芝生観覧スペース・施設整備の留意点①

芝生観覧スペース

- ・公園として、市民に開放された施設として整備します。
- ・飲食機能として、キッチンカーなども誘致可能で、朝市やフリーマーケット、映像装置を活用したパブリックビューイング会場など、レースのない日も市民に楽しんでもらえる取組みを計画できる広場として計画します。

ユニバーサルデザイン

- ・子どもから高齢者、親子連れ、障害者、外国人など、全ての人が使いやすい施設を目指します。
- ・円滑な通行動線の確保と案内表示のピクトサインを充実させ、安全、安心な施設とします。
- ・観覧席は、車いすの眼高を900mmと設定した上で視界を確保します。
電動車いす充電対応が可能となるよう、コンセントを計画します。
- ・公園内の施設として、視覚障害者にもやさしい、誘導ブロックを計画します。
- ・エントランス廻りは車寄せを計画し、雨にもぬれない軒下空間を広く確保します。

施設整備の留意点②

家族連れ、新規来場者向けの設備

・女性・ファミリー層にも利用しやすい施設として、パウダールームの設備、授乳室、ほかバリアフリーにも対応した設備を充実させます。

防災機能の充実

・備蓄倉庫を整備し、地域の防災力を高めることに貢献します。

環境への配慮

・エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量の削減を図るため、太陽光発電などの自然エネルギーの活用を検討します。

・可能な範囲で木材活用に努め、公園内施設に相応しい温もりのある仕上げを選定するとともに、緑との調和に努め、周辺環境にも配慮した施設とします。

・省エネルギー設備の導入や積極的な緑化により、環境負荷の軽減を図る施設とします。

ギャンブル依存症対策

・庁内の関係部局とも連携をとりながら、公営競技業界として実施する対策等に参画してまいります。

第4回向日町競輪事業外部有識者会議 議事概要

- 日 時：令和5年3月15日（水） 13：30～15：00
- 場 所：向日町競輪場 向日町会館 2階会議室
- 出席者：川勝座長、岡崎委員、奥野委員、小長谷委員、徳廣委員、山本委員

<議事>

(1) 「向日町競輪事業の今後のあり方に関する基本的な考え方」について
「資料1」に基づき、京都府から説明

(2) 今後の対応について

「資料2」～「資料4」に基づき、京都府から説明

(山本委員)

- ・ 資料3の1頁の「公営競技の状況」について、どの公営競技も前年度より売上が低くなっているが、実際はどの公営競技も売上は伸びているのではないかと。

(京都府)

- ・ 令和4年度の「公営競技の状況」は、令和5年1月末時点のもので、前年度（令和3年度）の売上は年間を通じてのものとなっている。公営競技は、全般的に売上は伸びているが、伸び方は鈍化している状況である。
- ・ その中でも競輪は比較的伸びしろが大きく、令和3年3月に決定された中期基本方針において令和7年度までに全国の売上目標1兆円を掲げているが、令和4年度中に売上が1兆円を超えるのではないかと全国組織では見込んでいる。

(奥野委員)

- ・ 資料3の1頁の車券売上のチャンネル別の状況はどうか。

(京都府)

- ・ 本場売上は、長期的なトレンドとして減少傾向にあるが、昨年度と比較すると新型コロナウイルスの影響は小さかったことから横ばいとなっている。増加しているのは、電話投票及び民間ポータルで、特に民間ポータルが増加傾向である。場外売上はどちらかというと減少傾向にある。

(川勝座長)

- ・ 構造的には民間ポータルが伸びているということで、全体としてはその点が1つの要因となって好調な方向に動きつつあるということである。

(小長谷委員)

- ・ 向日町競輪場は、防災の拠点となることはあるか。

(京都府)

- ・ 向日町競輪場は、向日市の緊急避難場所に指定されている。

(小長谷委員)

- ・ サイクルパーク京都の利用状況は令和3年度より増えているが、バンクの利用状況は3月1日現在で少し減っているがどうか。

(京都府)

- ・ 現時点では少ないが、最終的には概ね前年度並になると思われる。

(岡崎委員)

- ・ 先日、民放の取材があり、向日町競輪場について放送されたが、非常に悪いイメージで放送されたような気がした。来場者の「日本で一番汚い競輪場」との発言や、向日市の紹介でも、阪急東向日駅前の商店街のさびれた様子が映し出されていた。
- ・ 向日町競輪場が老朽化で、使い勝手も含めて悪いイメージがあると、向日市や周辺地域のイメージも悪くなる。今後の整備の中で、競輪事業だけではなく、周辺環境も含めて、地元の我々も協力して立て直していかなければならないと感じた。

(川勝座長)

- ・ 大変重要な御指摘であり、後ほど皆さんと議論させていただきたい。

(3) 意見交換

(徳廣委員)

- ・ 先日、自転車競技の全国高校選抜大会が北九州メディアドームで開催され、私も参加した。北桑田高校の選手が、優勝を含めて4種目で入賞した。コロナもある程度改善してきた中で、非常に盛り上がり、選手・保護者だけではなく、一般の方の入場もかなり多かった。日本代表選手が海外の世界大会でも活躍するようになっていっているので、競輪や自転車競技が注目を浴び出していると感じる。特に、マスコミやネット上でも取り上げられることが増えている。注目を浴び出したということを感じている。
- ・ そうした中、競輪事業の改善をどのようにしたらよいかということで、施設改修も頭に入れて考えると、北九州メディアドームは非常に大きな建物で、ドームになると外部からは何をやっているかほとんど見えないというデメリットもあるが、施設的には素晴らしい、選手が競技をするには非常に恵まれた環境である。
- ・ 一方で、中だけで競技をやっているという感じではなく、外からも見られるようなものがいいのではないかと。そうしたことを考えると、日本で初めての屋根のあるバンクがあればいいのではないかとこの思いを持ちながらレースを見ていた。
- ・ 最近できた競技場には大型モニターが設置されており、リアルタイムでモニターに映し出される。外から見られるような形になれば、何をやっているのかということも含めてわかりやすいのではないかと。実際に、モニター画面を見ながら、レース展開を冷静に判断している選手も多く、より魅力が増すのではないかと。また、バンクを他の用途に使用する際にも、モニターは様々な用途に有効に使えるのではないかと。
- ・ 選手目線になってしまうが、選手ファーストで考えると、競輪選手が向日町競輪場のバンクで走りたい、向日町競輪場でレースが開催されるとよいと思ってもらうことは非常に大事なことである。現時点では、選手宿舎の改修は対象になっていないようであるが、浴室やトイレの洋式化が進んでいないことなど選手を全部後回しにしているのではないかと。北桑田高校の生徒達もよく使わせていただいているので、そうした話は聞いて

いる。競輪場が本当に生活の場に近いような競輪選手にとって宿舎でどのように体を休めて、どのように過ごすのかということを考えると、浴室・トイレも大事である。

- ・ ガールズケイリンが注目を浴び出して、選手になりたいという人口が増えてきたのではないかと感じており、注目もされ出している。女子選手が宿泊することを考えたときに、浴室やトイレの話も大きい話ではないか。建物自体の改修はともかく、水回りの整備は検討が必要ではないか。施設を使う選手ファーストで考えるべきではないか。
- ・ 自転車ロードレースのアニメ「弱虫ペダル」がNHKで放送され非常に注目をされており、人気が再燃している。昨年、北桑田高校が「弱虫ペダル」のリアル版ということで、NHKで特集を組んでいただき、放送されたがすごく反響があった。
- ・ 漫画家のどなたかに競輪の漫画を描いていただけないかと思うくらいであり、そうすれば、向日町競輪場だけでなく、競輪の人気もう一段階上がるのではないか。アニメの発信力は、海外を含めて非常に大きいので、そうしたことにも取り組めないか。

(山本委員)

- ・ 施設全般に関して、やらなければいけないことがたくさんありすぎる。一方で、費用をどうするのかという話が必ずついてくるが、全部やろうとするとまだまだ金銭的にはしんどいところがあり、それとどのように折り合いをつけていくかということになるのではないか。
- ・ 比較の対象となる他の競輪場もそうであるが、公営競技だけでなく、スポーツ施設が、見る方もする方も非常に快適な施設になってきている。今回の施設整備のきっかけを逃すと、また何十年も先になってしまうので、やれることはやるべきではないか。
- ・ 徳廣委員から発言があった部分は、できればというよりも、どちらかというともラストに近い感じもするので、最小限きちんと快適であることは当然であり、その部分を含めて、それ以外の時にどう使えるかということと一緒に考えていく。
- ・ 地元利用として、レースを開催していないときに施設をどのように使っていくのかは、ある程度、地域住民の皆さん、行政も含めて、どういったことに使いたいのかを反映させられるとよいのではないか。
- ・ 資料3の1頁にある「イベント・催事等」について、可能であれば、KARA-1といったようなイベントの開催が常設化できるなど、人を集められるような種を持ちながらこの施設を有効に使っていくということも一つの方法ではないか。余剰スペースをどのように活かしていくのかを、基本構想の中で何らか位置付けられればよいのではないか。その点については、地域住民の皆さんの考えを尊重できれば、なおよいのではないか。

(奥野委員)

- ・ 公営競技としての採算も当然ながら大前提であるが、選手を育成し続けることによって競輪事業が継続するということを含めると、環境整備への投資は、施設の観点だけではなく、競輪事業全体の持続性に関係することになるのではないか。京都の選手を育てるだけではなく、多くの選手が、向日町競輪場で走りたいと思い、是非レースに参加したいと思うことが大事ではないか。「根性だけで頑張れ」と言い続ける時代でもないので、とても大事なことはないか。
- ・ 余剰スペースがどのようにしてお金を生み出すのかということも、財源という意味で

は期待するところであり、検討できるのではないか。今後、余剰スペースの利活用について、リニューアルされる向日町競輪場と相乗効果のある活用方法の提案を民間事業者に求められるかと思うが、余剰スペースから生まれる資金も、競輪事業全体の魅力やこのエリア自体の魅力に関わる、単純に余剰スペースの魅力だけではなく、全体の魅力に還元できるような提案になると、資金の捻出という意味では、やらなければならないところ、お金をかけたいところにかけることができるのではないか。

- 一方、選手賞金は現金で手渡しされていると聞く。それ自体は、選手の士気が上がるなどプラスの効果もあるとは思われるが、今後の継続的な経営改善からは、マイナンバーカードの普及率なども踏まえると、競輪事業の運営がキャッシュレスになることで、逆にだからこそクリーンであるといったイメージアップも図れるのではないか。
- 入場料50円も現金で徴収されているが、これも全く無駄であると思っており、それ以外のこのエリアの利活用の観点からも、そうした部分をもっとスリム化し、人手のかかるコストにつながる部分を何で削減するのか。お金を数えたりするよりも、楽しまれる方に提供するサービスにより人手をかけるといった運営ができるとよいのではないか。

(川勝座長)

- 資料3の2頁の「投票窓口の自動化(無人化)率」に関して、「投票窓口の自動化率 93.8%」とあるが、この数字は全てキャッシュレス決済が可能な仕組みなのか。

(京都府)

- キャッシュレスではなく、人を介さないという意味での自動化である。

(小長谷委員)

- 選手の育成、次世代に繋がるということが非常に大事である。立派な施設、ドームや大型モニターといったことで憧れて選手になる方も出てくることは本当に大事である。
- そうした施設や余剰スペースの整備は、なるべくお金をかけないということで、池袋のビル群にも広い芝生に変わったところがあったり、高槻駅の駅前も広い芝生のスペースになったり、草津駅の近くもそういうスペースになったりと、親子連れが非常に多く来られているということで、遊具などを作らないといけないということではなく、広い芝生のスペースだけでも、子どもたちが安心して遊べるスペースが作れるのではないか。そこにドームのような自転車競技施設があって、自由に外からも見ることができるようにしたり、モニターを外側につけたりすれば、芝生のスペースで遊んでいる時に選手の姿を見ることができ、身近にかっこいいと思えば、自分も選手になろうという子どもたちやガールズケイリンにチャレンジしようという方も出てくるのではないか。
- 施設整備にもメリハリをつけて、立派な施設の部分とそれ以外の部分に区分けし、立派な施設の部分には賃貸する部分も整備し、自転車のウェアなどの自転車関連業者に貸して、地代や家賃を安定的に徴収できるような仕組みなどができればよいのではないか。

(岡崎委員)

- 結論は出されていないが、施設の改修をどうするかで、土地利用も非常に変わってくるのではないか。全面的な改修でなくても、向日市にとっては都市計画上の大きな変更にも関わる問題になってくる。広大なスペースを有効活用してほしいという想いは地域

住民の皆さんも同じである。

- ・ 都市計画上の用途地域の変更は平成8年に行われ、住居専用地域であったこの地域が、競輪場の改修のために近隣商業地域に変更されたという経緯もある。また、地区計画の中では、緑地の確保が大きく謳われていた。
- ・ 向日市は狭い地域に、6万近い人口があり、緑が少ない地域でもある。そうした中で、競輪場の広大な敷地は緑に覆われていてほしいし、その中で競輪場が運営されたらよいのではないか。こうした経過を踏まえ、今後、余剰スペースの活用を考えていかなければいけない。
- ・ 特に、競輪場の南側は住宅地に隣接しているので、そことの間隔をどれぐらいとるのか。競輪場が開放的になれば、距離感が近くなるので、その部分との緩衝をどのようにするのかということも含めて、議論していかなければならない。
- ・ 近隣地域に子育て世代が多いこともあるので、子どもたちが気楽に来て、遊べる施設も兼ね備えていただければ一番よいのではないか。
- ・ 余剰スペースの活用は、向日市民にとっては一番の関心事である。一方で、緑地ばかりであれば、活性化につながるのかということもあるので、緑化と活性化がうまくかみ合った施設に生まれ変わればと思う。

(徳廣委員)

- ・ サンガスタジアムにも少し関わっているが、先日、京都サンガとFC東京との試合があった。東京と京都のチームの試合であったが、それ以外の他府県ナンバーの車もかなり多く来ており、非常に賑わっていた。
- ・ サポーターに聞くと、サンガスタジアムに来るのが楽しいとのことであった。競技場自体に魅力があって、サンガスタジアムで試合を見るのが好きであるということで、違うチームのサポーターも来ている。集客を考えた時に、競技場自体の魅力が大切であると感じた。
- ・ サンガスタジアムは、アクセスもよく、駐車場もお金を払えば充分にある。スポーツクライミングや3×3バスケットボールコートがあり、様々なスポーツが楽しめる。芝生広場には遊具があり、試合が開催されていないときも多く多くの親子連れが遊具や芝生で遊んでいる。非常によい例なのではないか。施設整備までには時間がかかったが、人が集まるよい施設になった。
- ・ 向日町競輪場もアクセスはよく、京都だけでなく京阪神一円から来やすい。芝生広場があって、子どもが安心して集える場所、府民が楽しんで安心してくつろげる場所、他府県からも選んで来てもらえる場所、そういう魅力が詰まっているのではないか。
- ・ スペースの関係もあり、あれもこれもとはならないが、様々な調整する中で、可能な施設を整備し、人を呼び込む魅力がある施設としてのポテンシャルは持っている。また、選手や競技団体に話を聞く中で、京都府に不足しているスポーツ施設はまだまだあると感じている。サンガスタジアムに「リード・ボルダリング・スピード」と言われる国際レベルのクライミング施設を設置したのも、47都道府県のうち沖縄県と京都府だけにはなかったのが、京都府にも作ろうということになった。様々な競技団体からの要望が、例えばスポーツ協会、京都府のスポーツ振興課に寄せられていると思うので、そうした意見も聞きながら、府民のニーズでもあると考えられるので、どういうものを整備していくかということの参考にできるのではないか。

- ・ 災害時の緊急避難場所であることを考えると、屋根があれば、日本で初めてのバンクでよいPRになるとも思う。大変なことかもしれないが、緊急避難場所として人が集うとしても、屋根や電気があることは大切ではないか。
- ・ 外で子どもを遊ばせていても、小さい子どもをずっと日向にさせるといかにいかに、お母さんもどこかに座って日陰で休んでいられるようなスペースも必要である。安心して、楽しんで人が集まるといった構想が必要ではないか。

(川勝座長)

- ・ 屋根の整備にはお金はかかるが、見方を変えると付加価値を付けるということでもある。ただし、優先順位があり、限られた予算の中で資源を有効活用する必要がある。でも、それがあつた方がよい。しかもそれは誰にとってもあつた方がよいということであれば、例えばその部分に関しては、クラウドファンディングで寄付を全国から募ることも考えられる。
- ・ 関係者という言葉がよく出てくるが、議論している時に感じるのは、関係者は非常に多様であるということである。向日町競輪場が次のステップに移る際には、関係者はより多様化してくるのではないか。そうなったときに、多様化した関係者から、皆さん屋根があつたらもっとよいと思いませんかというようなお金の集め方を屋根に関してだけやってみる。それ以外はスタンダードなお金の集め方で整備するというやり方もあるのではないか。

(川勝座長) (まとめ)

- ・ 委員の皆様から多くの御意見をいただいた。これで全てではないと思うが、整理させていただく。
- ・ 1点目は、施設をリニューアルすることになることから、「誰にとっても魅力的な、憧れの場とする」、いわば「聖地をつくる」といったような大きなコンセプトがいないかということである。
- ・ 関係者が非常に多様化しているという話をした。「選手ファースト」という話もあつた。選手、選手を支える監督・コーチや地域住民の皆さんなど、本当にありとあらゆる関係者がいる。「選手」という括りでみても、女子選手への配慮という話もあつた。誰にとっても、魅力的な、聖地となり得るような競輪場を構想するという、この一番大きなビジョンを皆さんで共有することが大事なのではないか。
- ・ 2点目は、メイン競技としての競輪があるが、もう少し面的にこのエリア全体の魅力を上げていくということである。レースを開催していない時の方が年間を通じては多く、その際には選手が練習する場として開放する、選手を育成する場としても必要なことではあるが、地域住民の皆さんが利用するスペースとしても魅力的なものに仕上げていくという意味では、一つ一つを点で考えるのではなく、面的に考える、そういう発想を常に持っておかなければいけないということである。同時に大事なことは、イベントの話もあつたが、イベントよりも日常利用のほうが大事ではないか。イベントの際、一時的に人が集まってくるが、一気に引いて行くということであれば、それは有効利用されたことにはならないので、むしろ日常的な利用を重視するような面的なスペースの活用を考えていくといったコンセプトが大事ではないか。
- ・ オープンスペースの話もあつたが、子どもを育てるようになって思うのは、子どもは

天才なので、広いスペースさえあれば、遊具がなくてもみんな楽しく遊んでくれる。親としては、子どもが飛び出したときに車が来ないように広いスペースがあるだけで、子どもを安全に安心して遊ばせることができるということもある。

- 向日町競輪場は、全国的には減少している子育て世代が周辺に集積していること、周辺地域を見渡しても競輪場が最も広い開けたスペースであることなど、様々な好条件が揃っている。例えば、アメリカ人はオープンスペースが大好きで、子どもだけでなく、大人も芝生が広がっているところで本を読んだり、昼寝したりするなど、そうした空間を楽しむことを重視している。日本の若い世代も特にそういった感性を強く持っており、これから観光客など外国人が訪れることも増えていくことを考えると、関係者が多様化する中でそうした方々もその対象になってくるのではないか。
- ついでに競輪なのか、ついでにオープンスペースで遊ぶのかどちらでもよいが、そういった様々な選択肢がこのゾーンにはあるというような構成が、基本構想でできるとなおよいのではないか。要するに、いかにエリア全体の魅力を引き上げるか、それが多様な関係者にうまく対応していくことになる。
- 3点目は、2点目とも関わるが、多様な関係者の中に、上手く民間事業者を巻き込んでいくことが大事であるということである。
- 経営のことも考えると、民間事業者に参画していただくためには、ビジネスとしてのうま味がないと参画してくれないのは、当たり前のことである。公益性との両立、公益性がしっかり担保されていることが大前提にはなるが、民間事業者がビジネスをして、一定の収益をあげられる活用を考えることは何も問題はないと思われる。
- 公益性の中には、安全面の確保も当然含まれる。住宅地との境界線にしっかりとバッファゾーンを設け、安全面はもちろんのことであるが、旧来的な、あまりイメージのよくないような雰囲気や漂うようなエリアは見直して、安全面及びイメージをうまく両立させるようなバッファゾーンをしっかりと構想していく。
- この3点は、結果として収入増にも関係していくであろうし、地域住民の皆さんに愛され、安心して過ごせるゾーンということと上手く結びつけていくことが期待できるのではないか。

(以上)